

---

## 第 16 回 通常総会 議案書

---

日 時 2023 年 2 月 25 日（土） 15 時 00 分～

場 所 そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター

岩見沢市 1 条西 4 丁目 3 ☎0126-24-9901

1. 開 会
2. 理事長あいさつ
3. 議長・議事録署名人の選任
4. 議案審議
  - 第 1 号議案 2022 年事業活動報告
  - 第 2 号議案 2022 年活動決算報告、監査報告
  - 第 3 号議案 2023 年事業活動計画
  - 第 4 号議案 2023 年活動予算
  - 第 5 号議案 役員改選
5. 議長退任
6. 閉 会

## 第1号議案 2022年事業活動報告（2022年1月1日～12月31日）

設立から15周年を迎えた2022年は、コロナ禍にありながらも少しずつ活動が活発化してきたことを感じた1年となりました。「奔別炭鉱の敷地開放」にも多くの人を訪れ、「ぷらぷらまち歩き」の再開、市民団体等との連携やマネジメントセンター入館者の回復傾向等々、明るい要素が多くありました。また『炭鉄港』も日本遺産認定後にコロナ禍という残念なスタートとなっていましたが、当年は認知度も更に上がってきたことを感じる場が増えました。

しかしながら、11月26日夜、吉岡理事長が急性動脈乖離により突然この世を去ることとなってしまいました。当NPOにおいて唯一無二の存在だったことから、その影響は図りしれず、今後の運営に心配が残りますが、役職員一同、一丸となってこれまでの萌芽を確実なものとするために努力していく所存です。また12月18日の臨時理事会において、平野義文（理事）が新理事長に就任、夕張市石炭博物館館長には石川成昭（常務理事）が就任いたしました。

以下、事業ごとに2022年の活動についてご報告いたします。

※活動計画に対する達成度：○=達成 △=途上 X=未了

※拠点の略称：MC=マネジメントセンター、CM=夕張市石炭博物館

### ■出版事業

×学校・教員に対する啓発のため授業資料を発刊予定だったができず

○リーフレット「炭鉄港」作成→炭鉄港を簡潔に説明でき広く配布できるように発刊

### ■炭鉱遺産事業

○2年間実施していなかった「ぷらぷらまち歩き」を実施、有料、定員、予約制  
全12回、延べ人数225名参加

○奔別炭鉱敷地公開

5/3から5/4 全3回、延べ309名参加

7/30から8/14 全5回、延べ412名参加

○3月 炭鉄港検定を実施 岩見沢会場40名 室蘭会場17名

○7月 「炭鉱の灯り」を奔別炭鉱敷地で開催

○《炭鉄港》日本遺産との連動による小樽・室蘭との広域連携の強化

1月 小樽日本遺産プロデューサー育成講座

4月 室蘭市民大学

5月 旧室蘭駅舎内で齋藤靖則模型展

10月 下関での日本遺産サミットで講演

11月 室蘭炭鉄港フォーラム講演

さまざまな場所での講演、授業の依頼が相次ぐ

### ■学術支援事業

○歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流事業

吉岡前理事長が（株）島津興業の顧問として北海道～鹿児島を月例往復していた体制下で、鹿児島の炭

鉄港関係者視察受け入れなどに対応し、連携強化を進めた。

○地域シンクタンクとしての展開

模擬坑道再建への策定、支援など地域シンクタンクとしての機能を発揮

■市民団体連携事業

○《炭鉄港》や、シーニックバイウェイ展開などを通じた他管内の機関・団体との連携

JR 団体臨時列車、各地での講演、小中学校の授業など様々な場所での依頼が相次ぐ

2月 北海道女性協会炭鉄港講演

5月 東京都の郁文館高校講演、駅周辺ガイド

6月 江別蒼樹大学講演

7月 砂川サービスエリアで書籍や商品を販売するブース出店

7月 空知鉄道の延伸記念式典に参加

9月 岩見沢市 東光中学校で講話

9月 室蘭本線 130 周年記念列車（旭川-室蘭）での車内解説

10月 奈井江中学校ツアーガイドと講演

10月 岩見沢東高校同期会バスツアーガイド

10月 開発局シューパロダム検討会参加

11月 スティ美唄で講話

他、多数実施してきました。

○国内外の関係者・団体への対応

マネジメントセンターや石炭博物館に炭鉱や《炭鉄港》について問い合わせや取材など、多様なアクセスがあり、これに積極的に対応しました。

■拠点施設事業

○そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実

マネジメントセンター入館者 2022年1月～12月 4,773名（2019年4,998名、2020年4,243名、2021年2,785名）

炭鉄港フレーム切手販売、炭鉄港カード配布、炭鉄港めしスタンプラリーポイントになるなど、炭鉄港の発信拠点として重要な位置づけとなっている。

○石蔵での企画

4/23～6/19 表紙に見る「炭鉱技術」展

6/22～7/3 撮りフェス in 室蘭 2021 受賞作品展

7/6～7/19 百年前の室蘭展

8/11～10/31 谷村研一写真展「北海道を繁栄させた鉄道と蒸気機関車」

■ヘリテージツーリズム事業

△東武トップツアーズ、炭鉄港推進協議会とともに、炭鉱跡地ガイドツアーやまち歩きツアーを実施した。

## ■石炭博物館事業

### ○指定管理業務の着実な実施：

2022年シーズンは、コロナ禍の終焉が見通せない中で、夕張リゾート破綻による影響も解消されない中（注1）ではありましたが、2020年、2021年に発出された緊急事態宣言による休館はなく、シーズンを通じた開館ができ、観光客の動きも復活の兆しが見えてきました。

事業計画時点では先行きの見えなかったことから、入館者数の目標は11,000人（有料）としました。それに対して、入館者数は17,196人（うち有料16,157人）となりました。1階無料展示だけで帰る無入館を含めた来館者数は18,881人でした。

事業計画との対比では、目標を46.8%上回ることができました。

2020年から継続している各種の環境整備の取り組みや、理事（大橋・石川・酒井・熊谷・平野・熊谷）による交替助勤体制が定着し、指定管理業務の着実な実施体制を継続しました。

また、9月より夕張市の地域おこし協力隊員1名の派遣を受け、博物館スタッフとしての教育訓練を実施しました。

注1：新型コロナ禍前の2018年度の夕張市の観光入込客数の内、宿泊者数は19.6%を占める約10万人でしたが、2021年度の宿泊者数は100人と皆減状態で、宿泊を伴う団体や回遊性の高いお客様の入館を誘致できない状況です。

### ○博物館の質的充実に向けた展開：

特別企画展「炭鉱の夕張」の高度利用（常設展や夕張市内との関連性誘導）、来館者満足度を最も高めているドラムカッター実演運転の解説員の多様化、収蔵庫の史料活用（展示・貸出）など、質的充実に向けた取り組みを継続できました。

その他、各種団体等の催事への参加・協力（下記）を通じて、博物館及び夕張の広報・PRに取り組みました。

- ・「夕張メロンラン」協力：景品/入館券提供、参加者入館割引（7/3）
- ・「北海道はゴールデンカムイを応援しています」ARスタンプラリー参加（8/1～11/6閉館まで）
- ・公社日本JC主催「南空知まちあそび人生ゲーム」チェックスポット施設使用提供（8/27、8/28）
- ・炭鉄港めしスタンプラリー チェックスポット（8/29～11/6閉館まで）
- ・2022南そらち秋のスタンプラリー チェックスポット（10/2～11/6閉館まで） ほか

## ■会務

### ×会員サービスの充実

交流会等を模索していましたが、コロナ禍でできませんでした

### ×企業賛助会員の拡大

成果を出す事ができませんでした

### △会員数

2022年12月末 総数=343名（2021年末344名）

運営会員=53名（同51名）、一般会員=266名（同269名）、賛助会員=24社（同24社）

第2号議案 2022年度活動決算報告、監査報告

2022年 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録  
2022年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	274,343	
普通預金 北洋銀行	4,776,925	
普通預金 北洋銀行 [石博]	7,022,815	
普通預金 空知信用金庫	338,843	
普通預金 北海道労働金庫	9,349	
普通預金 ゆうちょ銀行	727	
郵便振替口座	173,827	
現金・預金小計	12,596,829	
未収金 [模擬坑道電力料]	520,807	
貯蔵品	234,474	
前払費用 [家賃]	150,000	
仮払金	291,702	
流動資産合計		13,793,812
2 固定資産		
建物付属設備	199,100	
工具器具備品	1,582,022	
減価償却累計額	△ 1,512,161	
有形固定資産小計	268,961	
敷金	50,000	
出資金 [空知信用金庫]	50,000	
投資その他の資産小計	100,000	
固定資産合計		368,961
資産合計		14,162,773
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 [電力料・社会保険他]	2,442,551	
未払費用	613,100	
預り金	455,975	
未払い法人税	904,500	
未払い消費税	1,007,900	
流動負債合計		5,424,026
2 固定負債	0	
固定負債合計		0
負債合計		5,424,026
III 正味財産の部		
正味財産合計		8,738,747

2022年 その他事業会計 財産目録

2022年12月31日現在

該当事項なし

2022年 特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表  
2022年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	274,343	
普通預金 北洋銀行	4,776,925	
普通預金 北洋銀行 [石博]	7,022,815	
普通預金 空知信用金庫	338,843	
普通預金 北海道労働金庫	9,349	
普通預金 ゆうちょ銀行	727	
郵便振替口座	173,827	
現金・預金小計	12,596,829	
立替金 [模擬坑道電力料]	520,807	
貯蔵品	234,474	
前払費用 [家賃]	150,000	
仮払金	291,702	
流動資産合計	13,793,812	
2 固定資産		
建物付属設備	199,100	
工具器具備品	1,582,022	
減価償却累計額	△ 1,512,161	
有形固定資産小計	268,961	
敷 金	50,000	
出資金 [空知信用金庫]	50,000	
投資その他の資産小計	100,000	
固定資産合計	368,961	
資産合計		14,162,773
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 [電力料・社会保険]	2,442,551	
未払費用	613,100	
預り金	455,975	
未払い法人税	904,500	
未払い消費税	1,007,900	
流動負債合計	5,424,026	
2 固定負債	0	
固定負債合計	0	
負債合計		5,424,026
III 正味財産の部		
1 前期繰越正味財産	6,123,100	
2 当期正味財産増加額	2,615,647	
正味財産合計		8,738,747
負債および正味財産		14,162,773

2022年 その他事業会計 貸借対照表  
2022年12月31日現在

該当事項なし

2022年 特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書  
2022年1月1日～2022年12月31日

単位：円

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
受取会費		1,687,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金		209,592	
3. 事業収益			
商品・書籍・飲食販売	2,688,207		
ガイドツアー	1,653,648		
業務受託	2,886,400		
指定管理	14,644,500		
入館料	11,228,570		
受託調査	1,609,900		
その他	1,285,565	35,996,790	
4. 助成金			
5. 補助金			
地域づくり総合交付金		700,000	
観光庁誘客多角化事業		12,731,000	
6. その他収益			
受取利息	2,127		
雑収益	173,800	175,927	夕張コロナ対策補助
経常収益合計			<u>51,500,309</u>
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
給料手当	12,431,458		
法定福利費	1,467,407		
雑給	926,241		
人件費計	14,825,106		
(2)その他経費			
売上原価	2,556,845		
謝金	1,806,891		
通信費	578,519		
光熱用水費	5,545,934		
旅費交通費	214,216		
旅費日当	250,000		
広告宣伝費	13,000		
交際費	63,039		
会議費	137,528		
消耗品費	1,952,520		
図書費	67,200		
印刷費	366,294		
修繕費	247,608		
地代家賃	440,200		
保険料	345,312		

委託料	9,656,020		
租税公課	1,399,900		
諸会費	221,400		
賃借料	5,550,961		
支払手数料	235,640		
職員研修費	13,260		
減価償却費	73,636		
雑費	151,276		
支払利息	83,388		
その他経費計	31,970,587		
事業費合計		46,795,693	
2. 管理費			
(1)人件費			
給料手当	300,000		
役員報酬	0		
人件費計	300,000		
(2)その他経費			
謝金	0		
通信費	0		
旅費交通費	86,980		
会議費	4,087		
消耗品費	10,978		
租税公課	621,000		
支払手数料	0		
その他経費計	723,045		
管理費合計		1,023,045	
経常費用合計			47,818,738
Ⅲ 経常外損益			0
税引前当期正味財産増加額			3,681,571
法人税・住民税・事業税	1,065,924		1,065,924
当期正味財産増減額			2,615,647
前期繰越正味財産額			6,123,100
当期正味財産合計			8,738,747

2022年その他事業会計 活動計算書  
2022年1月1日～2022年12月31日

該当事項なし



# 監査報告書

2023年01月31日

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

理事長 平野 義文 様

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

監事 加藤 愉朗

監事 三上 秀雄

2022年01月01日から2022年12月31日までの2022年（第16期）における、会計および業務の監査の結果について、下記の通り報告いたします。

## 監査意見

1. 財産目録、貸借対照表および活動計算書は、会計帳簿の記載と一致し、特定非営利活動法人の損益および財務の状況を、正しく示しているものと認めます。
2. 事業報告書の内容は、真実であると認めます。
3. 理事の職務執行に関する不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

本年、当NPOは多くの変化の年となります。これまで培ってきた活動を礎とし、新たなフェイズへの変化が必要です。その概要については（別紙）所信とさせていただきます。

#### ■出版事業

- ・例年であれば「ブックレットの発刊」、「関連資料の制作・公開」となるが、今季はNPOが主体となっていくことは難しいと考えていることから、何らかの要請等に対する協力を実施
- ・出版事業に値するものとして新規事業として動画配信事業を強化

#### ■動画配信（新規）

- ・1月より前年度ぶらぶらまち歩き 2022 の振り返り配信、及び炭鉄港の価値向上に関するYouTube動画配信を開始
- ・炭鉱遺産事業や会務との連動企画を実施

#### ■炭鉱遺産事業

- ・コロナ対応の変化に応じたぶらぶらまち歩きの実施
- ・奔別立坑周辺の利活用に向けた取り組み
- ・各種活動団体等との連携強化（新規）

#### ■学術支援事業

- ・歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続に向けた取り組み
- ・地域シンクタンクとしての展開
- ・教育機関との連携

#### ■市民団体連携事業

- ・《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・団体との連携
- ・国内外の関係者・団体への対応

#### ■拠点活動事業

- ・そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実と認知度向上
- ・会員による運営支援の試行

#### ■ヘリテージツーリズム事業

- ・例年であれば「誘客多角化事業」、「鹿児島との相互交流事業」の実施を計画するところであるが、今季は積極的な運営主体ではなく、必要に応じた協力を実施

#### ■石炭博物館事業

- ・指定管理業務の受託更新に向けた取り組み
- ・博物館の体制強化
- ・博物館の質的充実に向けた展開
- ・模擬坑道再建に向けた支援及び再開準備

#### ■会務

- ・会員サービスの実施
- ・企業賛助会員の拡大
- ・新たな経営戦略と運営体制の検討

第4号議案 2023年度活動予算

2023年 特定非営利活動に係る事業会計 活動予算書  
2023年1月1日～2023年12月31日

科 目	金 額 (円)	主要な細項目 (千円)
I 経常収益		
1. 受取会費	2,300,000	運営500、一般700、賛助1,100
2. 受取寄付金	100,000	
3. 事業収益	28,000,000	物販2,500、CM25,000、ツアー500
4. 助成金	0	
5. 補助金	2,300,000	道地域づくり交付金2,300
6. 受取利息	500	
7. その他事業からの繰入金	0	
経常収益合計	32,700,500	
II 経常費用		
1 事業費		
人件費	12,660,000	MC3,000、CM9,660
経費 出版事業	50,000	仕入書籍売上原価50
遺産保全活用事業	50,000	
学術支援事業	50,000	
市民団体連携事業	50,000	MC原価、市民活動支援
拠点施設運営事業	1,325,500	光熱用水費など経常経費
炭鉄港ネットワーク事業	4,600,000	
石炭博物館事業	11,350,000	
事業費小計	30,135,500	
2 管理費		
人件費		
その他経費	2,400,000	会議旅費100、消費税700、事務委託1,600
管理費小計	2,400,000	
経常費用合計	32,535,500	
法人税・住民税・事業税	165,000	
当期正味財産増加額	0	
前期繰越正味財産額	8,738,747	
当期正味財産合計	8,738,747	

2023年その他事業会計 収支予算書  
2023年1月1日～2023年12月31日

該当事項なし

**第5号議案** 役員改選（任期：2023年2月25日～2025年2月開催の定期総会終了時）

■候補者

【理事】平野義文（重任）

- 現理事長、岩見沢市議会議員、岩見沢市在住

大橋二郎（重任）

- 現副理事長、(有)大橋設備工業代表取締役、芦別市在住

植村真美（重任）

- 現副理事長、北海道議会議員、コミュニティーガイドクラブ TANtan 代表、赤平市在住

酒井裕司（重任）

- 現常務理事、イメージランドスケーププランニング代表、札幌市在住

石川成昭（重任）

- 現常務理事、日本データサービス(株)、土木学会道支部土木遺産選考委員、札幌市在住

仲嶋憲一（重任）

- 現理事、(一社)室蘭観光協会事務局長、登別市在住

熊谷隆文（重任）

- 現理事、学芸員・元石炭博物館館長、夕張市出身・在住

上遠野敏（重任）

- 現理事、元札幌市立大学デザイン学部教授、札幌市在住（三笠市にアトリエ）

北口博美（重任）

- 現事務局長、岩見沢市在住

【監事】加藤愉朗（重任）

- 現監事、植村建設(株)、赤平在住

三上秀雄（重任）

- 現監事、コミュニティーガイドクラブ TANtan 名誉会長、赤平市在住